

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171300140
法人名	有限会社 ゆとり
事業所名	グループホームゆとり苑
所在地	佐賀県小城市三日町甲柳原170番地2 (電話) 0952-72-6632

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年4月25日	評価確定日	平成 20年6月27日

## 【情報提供票より】(平成20年1月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8.4

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年3月4日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	2 名	要介護2	4 名			
要介護3	2 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	82 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひらまつ病院 古賀医院 ゆめ歯科
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に立ち並ぶ木造平屋建てのグループホームである。窓からは明るい光が差し込み、居間等の空間からは田園風景を眺めることができる。苑庭には木々や花が植えられ自然を感じることができる。管理者が長年住む地域でもあり、事業の運営にあたり、入居者と地域住民とのスムーズな交流が図られる等協力関係は良好である。同地域にあるグループホーム等との入居者・職員同士の交流も図られている。理念にある「その人らしく、心ゆたかに、安心と安らぎのある暮らし」が職員の接し方や入居者の過ごす雰囲気から感じられるホームである。管理者は、職員の研修や資格取得の配慮に加え、個々の気付きやアイデアを積極的に受け入れ、入居者へのサービスに反映できるように取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は職員に伝えられ、その評価をもとに、職員全員で話し合いながら、改善にむけて取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員間で集まり、評価の目的や意義を理解し、それぞれ評価項目を確認ながら話し合い、自己評価に取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回の運営推進会議には、家族をはじめ、地域の住民の方々、さらに地域の他事業所の参加を呼びかけ、事業の取り組みについて、情報交換が行なわれている。会議を通して、地域行事への参加への呼びかけ、散歩時の声かけ、また、他事業所との交流などが行なわれる等、サービスの質の向上に繋がっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族来訪時には、職員が入居者の暮らしぶりを報告したり、年2回の家族会の実施、また、状況に応じて家族と電話連絡を取り合う等行いながら、本人、家族の意見、要望等を尋ね、それらを取り入れながら、入居者のホームでの生活に、よりよいサービスが提供できる様に取り組まれている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の方より、野菜の差し入れや散歩時の声かけ、野菜作り等の為の畑を提供を受ける等、地域の人々との関わりを深くもたれている。また、近隣の老人福祉施設の祭りや市の福祉祭りなど、地域の活動へ積極的に参加し、交流を図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の方一人ひとりが、その人らしく、安心して地域での暮らしが続けられることを目指し、「その人らしく、心豊かに、安心と安らぎのある暮らし」という理念を作りあげられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には、理念などの運営上の説明を行う様にされている。また、日常のケアを通して理念の実現に向け、管理者・職員は、ケアの方針について申し送り時や全体の会議の中で話し合いをもち、工夫・改善に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方より、野菜の差し入れや散歩時には声掛けてくれる等、地域の人々との関わりを深くもたれている。また、市の福祉祭りや近隣の福祉施設の祭りに参加する等、地域の活動へ積極的に参加し、交流を図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義等を踏まえ、職員間で話し合い、自己評価に取り組まれている。また、評価・改善内容は、ミーティング時や申し送りノート等を通して、全職員が理解し、サービス改善に取り組めるよう努められている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、会議を開催。家族会代表、民生委員、婦人会等、さらに地域の他事業所の参加を呼びかけ、話し合いを行っている。また、そこでの意見等を朝礼・会議等を通して共有し、サービス向上へ繋がる様努められている。今後、会議に入居者の参加を検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市(福祉課)より、入居相談等の問い合わせ時には情報提供等の対応を行っている。また、日頃より、書類等を持って窓口を訪れる際は、可能な範囲で情報交換を行い、連携・協働していけるように取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪れた際には、職員がそれぞれ、日頃の様子や健康状態等を伝えるようにされている。また、2ヶ月に1回、苑便りを発行して苑での生活の様子を写真等を通して伝えられている。入居者の状況に応じて電話連絡等も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、運営推進会議に出席の家族より意見、要望等を尋ね、サービスに反映できる様に取り組まれている。また、家族の訪問時には、気軽に意見や希望が話しやすい様な雰囲気作りや、家族と職員との関係作りに努められている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず職員の離職がある場合でも、入居者が困ることがないように、引継ぎの時間を多くかける、他の職員がカバーするなどの配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修は、職員に参加を促し、順番にどの職員も広く研修を受講できるよう配慮されている。また、研修報告を通して、業務の中に取り入れ活用できるように取り組まれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回、地域の同業者との交流会、他の事業所の勉強会などに参加し、交流を深めたり、情報や意見などの交換を行っている。また、他の事業所と合同で花見を行ったりと、入居者と他の事業所の入居者同士の交流も取り入れられる等サービスの質の向上にむけ、工夫されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、家族と共に来てもらい、ホーム内で、食事を摂ったり、日課に参加して過ごしてもらおう等体験的な利用を通して、雰囲気馴染んでもらいながら、利用できるよう取り組まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、入居者との関わりの中で、相互に協働しながら、支え助け合う関係を築いていけるよう取り組まれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際、本人、家族より、今までの生活習慣や入居後の暮らしに関する意向、希望等を把握できるよう努められている。また、入居時には、言葉として表れなかった本人の気持ちや把握できなかった家族からの情報を、日頃からの関わりや家族面会時等に少しずつでも把握できるように取り組まれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の意向、家族へは来訪時や電話等にて希望、意向等の情報の収集を職員間で協力して行い、カンファレンスを通し介護計画作成に取り組まれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しとともに、状況・状態に応じて随時話し合いを行い、現状に応じて変更等を行うようにされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が対応できない時の通院の支援等を行うなどの柔軟な対応がなされている。また、入居者の理美容院への外出、その時々々の要望に応じて、散歩、買い物等の外出等の支援も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人と家族の意向を踏まえ、入居する前からのかかりつけ医への受診支援を行うようにされている。また、往診、緊急時の対応など、日頃より、協力医療機関とは連携・協力関係づくりに努められている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を作成され、説明と署名捺印を得るよう対応が行われている。また、本人・家族、かかりつけ医療機関との話し合いを通して、職員全体で方針を共有しながらケアにあたれるよう取り組まれている。ホーム内では、今までに看取りは1名対応されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりに合った言葉かけや対応が丁寧になされている。また、記録物等の個人情報は事務所内で管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの共同生活を送る上で、ある程度の生活の流れがあるものの、入居者一人ひとりの生活リズムや状態に配慮し、声かけを行いながら、出来る限り希望に添えるよう支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者と話し合いで決め、一緒に買物を行っている。入居者の可能な範囲で、下ごしらえ、配膳、下膳、茶碗拭き、収納等それぞれ役割をもち行っている。調理は畑で収穫された野菜等を取り入れる等工夫を行い楽しめる様配慮されている。職員は入居者と一緒に食事、会話をしさりげなく声かけ・見守りをされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきに行われている。希望があれば、いつでも入浴できる用意はあるが、現在のところそうした希望はない。入浴に当たっては、負担や無理のないよう、本人の希望を重視し行うよう配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買物や散歩、季節ごとの行事等の外出、また、カラオケや野菜づくり、入居者個々人が以前していた趣味(写経等)などの活動が行われ、入居者の楽しみや気分転換となっている。また、日々の生活の中で、洗濯物たたみや食事の準備・手伝い等入居者個々人の力を活かせる役割がもてるような取り組みも行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	美容院や買い物、畑仕事や草取り、外食、地域行事などの外出支援への取り組みがなされている。可能な限り、日常生活の中で外出できる、戸外で過ごせる機会を設けられている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけず、いつでも出入りが出来る環境になっている。職員間では、見守りや声をかけ合うなど入居者の行動に気を配り居場所の把握をされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時、入居者が安全に避難・誘導できるよう、年2回、避難経路の確認、消火器の使用方法など訓練を行っている。地域の協力体制については、ホーム両隣や同じ班の方へお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々人の食事・水分摂取量を記録し、職員全体で把握出来る様にされている。野菜を中心に肉・魚を組み合わせ、彩りや食べやすい形状等を工夫し、バランスよく摂取できる様配慮されている。入居者の状態によって、補助食品等の代替品、水分に軽くトロミを加える等かかりつけ医とも相談しながら支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が集う居間は、窓から明るい陽が差し込む空間となっており、ソファーやテーブルの椅子にそれぞれ腰をかけられ、ゆっくりと過ごされている。食事のできる音や匂いや居間から庭の植物など眺めることができるなど生活感や季節感を感じられる環境となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者には、自分の使い慣れた茶碗や湯呑み等を、また、以前行っていた習字や裁縫などの大切な道具等の品々を入居時に相談しながら、個々に持ち込んでもらうなど、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		